

5 内部障害のある人

(1) 避難所で困ること

- 外見からは障害の有無が判断しにくいいため周囲から誤解されやすい。
⇒ 日常的に非常に疲れやすいなど個人によって様々な症状がある。
- 常時服薬している薬の確保（病状の悪化を懸念）
- ストーマやパウチなどの専用の装具を利用している人は専用の装具（装着には道具一式（ハサミ・ガーゼ・テープ・ドライヤーなど）が必要）を交換するプライバシーに配慮したスペースが必要
- 避難所などでの集団生活を一定期間強いられる場合、一般的に内部障害者は、免疫力が低下しているため、風邪などの感染症に対する不安が大きくなる。

※ 内部障害とは・・・

内臓機能の障害であり、心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう直腸、小腸、免疫機能などの障害で、その種別により様々な器具を使用される。

(2) 必要なもの・体制

- ・ 呼吸器疾患の人の中には、携帯用の酸素ボンベを利用されている人がおり、長時間の利用には交換が必要なため、専門業者に連絡し手配する。
- ・ 医療機関と連携し【専用の装具】や【薬品】などの物品の入手、透析患者への治療の手配などを行う。
- ・ 【簡易オストメイト対応トイレ】
⇒ オストメイトに対応した簡易トイレがない場合は洋式トイレ、椅子、台、手洗い場、洗浄剤、ごみ袋などを活用して装具を交換する。

(3) 災害直後の対応方法・考え方

- 対応方法（ソフト）
 - ・ 簡易発電機（電磁波）の近くにペースメーカーを利用されている人が近づかないよう、貼り紙などで注意を促す。
 - ・ 人工透析を必要とする人や、インスリンを必要とする人などは、継続的な治療が必要なため、早期に医療機関と調整し入院などの手続きを行う。
 - ・ 内部障害のある人の中には医薬品の枯渇が命に関わる場合があるため、

個別のニーズを把握し、それらの情報を医療機関と共有し、いつでも手に入るかなど正確な情報を利用者に伝えることが大切

- ・ オストメイトの利用者は、専用の装具を自宅やそのほかの場所に備蓄されている場合があるため、備蓄の有無を確認のうえ専用の装具の確保を支援する。備蓄がない場合は、専門機関などと連携し専用の装具を確保する。
- ・ 医療機関などの巡回診察を実施する。

(4) 必要な専門員（避難生活が長期化する場合）

- ・ 医療機関関係者 ・ 保健師 ・ 関係支援団体など

☆ 少し気遣って・・・

- ・ 内部障害は外見から判断が難しいため、外見だけで判断せず、積極的にできるだけ多くの避難者に声掛けを行いニーズを把握することが大切
- ・ 塩分など食事制限が必要な人もおられるため、食事の提供にも注意が必要